

巻頭言

新たな時代に向けた「KAKUSHIN～革新・核心・確信」 ～日本VE協会 2016年度の概況と2017年度の展望～

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

理事 事務局長

宮本 彰夫



2016年度の我が国経済は、内閣府の「月例経済報告」等によりますと、設備投資や輸出、生産が持ち直しているほか、企業収益の改善が持続して経常利益が過去最高を更新する等、総じてみれば緩やかな回復基調が続いたとのことでした。

この基調は、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動がマイナス影響を及ぼすリスクがあるものの、今後も続くと思われております。

長期的な傾向としては、生産年齢人口の減少や生産拠点の海外展開、さらには開発・設計機能の海外シフトも進行しているようです。国内においては、より付加価値の高い製品の開発やGDPの約7割を占める非製造領域の生産性向上などが課題となっております。

このような状況下、本会では、

- ①裾野拡大のためのVE普及活動
- ②アジアを中心とする海外への事業展開
- ③国内においては、個別企業のニーズに対応するVE活用支援事業の展開

などに注力いたしました。

また、

- ④サービス分野への普及検討
- ⑤新領域である教育分野へのVE導入の検討
- ⑥「不便益」という概念にVEの考え方やTRIZの思考法を結び付けるチャレンジングな研究

も進めて参りました。

裾野拡大のためのVE普及活動では、各支部や委員会の皆様のご支援による様々な活動成果を得られたほか、VM実践塾や通信講座の受講者を増やすことができました。海外展開については、中国、

タイ、フィリピンで普及活動を行ったほか、タイ・中国に続いて韓国でもVEリーダー認定試験が行えるように準備を進めてきました。

企業からの依頼に応じて実施するVE活用支援（出前講座および講師派遣）は、積極的なPR活動の結果、出前講座・講師派遣とも前年度を上回る件数の受注をいただくことができました。

教育分野へのVE導入については、「京都大学サマーデザインスクール」でワークショップを行ったほか、VE全国大会で「VE&ESD（持続可能な開発のための教育）フォーラム」を実施しました。また、ESDを推進している公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と共同でESDへのVE導入について協議し、その手段としてアクティブ・ラーニングへのVE導入についての検討も行いました。

さらに「不便益」という概念にVEの考え方やTRIZの思考法を結び付ける研究も進め、後述する「VEアジア大会兼VE全国大会」で研究内容の一端をご紹介できそうです。

2017年度においては、上記の活動に継続して注力するほか、一大イベントとして「第6回VEアジア大会」と「第50回VE全国大会」を同時に開催する予定です。マイルズ氏がVEを創始してから70年という節目の年に、「KAKUSHIN～革新・核心・確信」をテーマに、様々な情報を発信するとともに、国際交流を促進し、アジアにおける日本のVEのプレゼンスを高める機会にもしたいと考えております。

同大会の開催に当たりましては、寄附金やスポンサーの募集を行っておりますので、多くの方々のご支援と大会へのご参加をお願い申し上げます。